

地域の課題解決に向けた地方自治体の取組み

江別市資料 2

笠岡市資料 12

久米島町資料 19

秩父市資料 27

日野町資料 32

江別市安心生活まちづくり推進事業

<大麻地区の再生をモデルとした取り組み>

北海道江別市

2014.1.28

江別市の概要

JRと国道を基軸に発展した市街地

- JR函館本線と国道12号を基軸として発展
- JR駅を核に江別、野幌、大麻及び豊幌の4地区で市街地が形成
- 大麻地区は最も札幌寄りに位置

全道9番目の都市

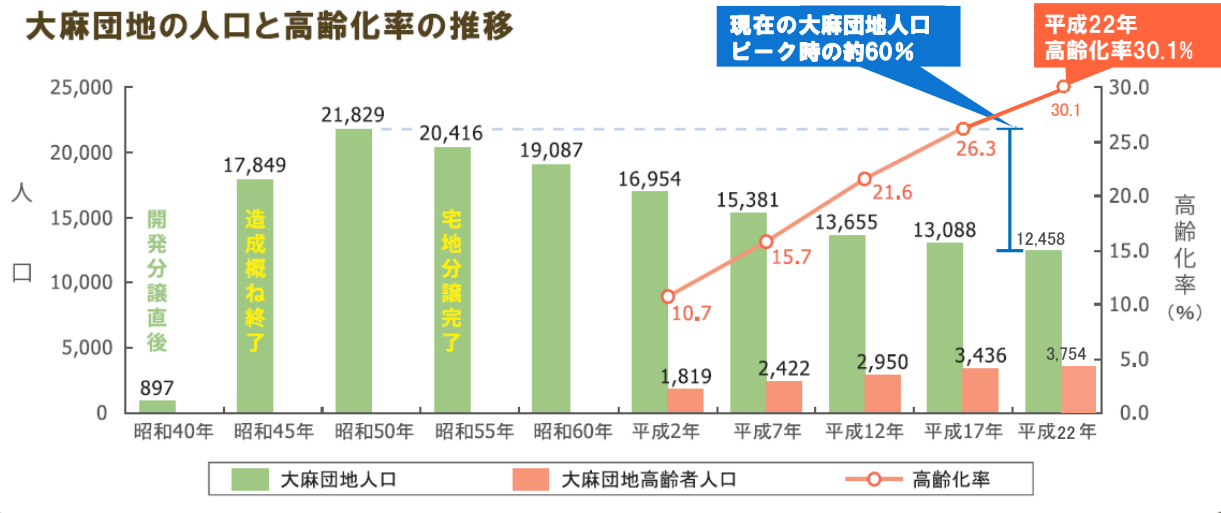
- 人口12万人を要する全道9番目の都市
- 札幌市のベッドタウンとしての機能
- 生活・文教都市としての多面的な機能

豊かな自然

- 大麻・野幌地区の南側には道立自然公園野幌森林公園がある
- 北側・東側には農業地帯と石狩川がある豊かな自然と田園環境がある



大麻団地の人口と高齢化率の推移



大麻団地の現況

- ◎昭和40年代、大麻地区に一齐に居住した方が、入居後40年を経過し、高齢者となり、江別市の中でも高齢化率が高い地区となっている。
- ◎江別市全体及び大麻地区の人口は増加しているが、大麻団地の人口は年々減少。
- ◎住宅の老朽化や空き店舗等が増加するなどの住環境の悪化が高齢者にとって、住みにくい街となっている。

3

大麻団地まちづくり指針の概要

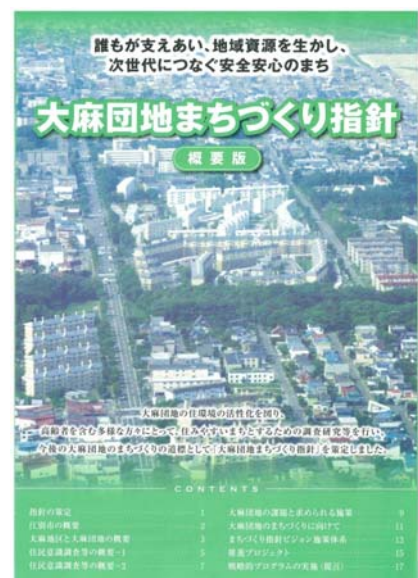
戦略的プログラム

- 大麻団地まちづくり推進会議の支援
- 地域運営組織による実践的な活動の支援
- 大規模土地所有者との関係構築づくり
- 上位計画反映のモデル事業の展開と新たな基盤施設の誘致
- 新しい公としての住民意識の醸成や実践的活動の促進

展開策

⇒ 実現化への先導的な役割を担う

- 良質な住宅ストックを確保し、健全な流通の促進
- 若年層の定住促進のため、既存住宅などへの住み替え支援
- 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができる介護、福祉の充実
- 高齢者総合計画における新たな基盤整備の推進
- 行き止まり道路(クルドサク)の再整備の検討
- 新たな除排雪への取組みの検討



4

団地再生システムの趣旨

安心して住み続けるまちを育む

「長く住み続けたい」という意識に応えることのできる「まち」をつくる。

多世代がバランスよく暮らすまちを育む

高齢者や若い子育て世代の暮らしや生活に適した環境形成に努める。

「住民」主体のまちづくりを育む

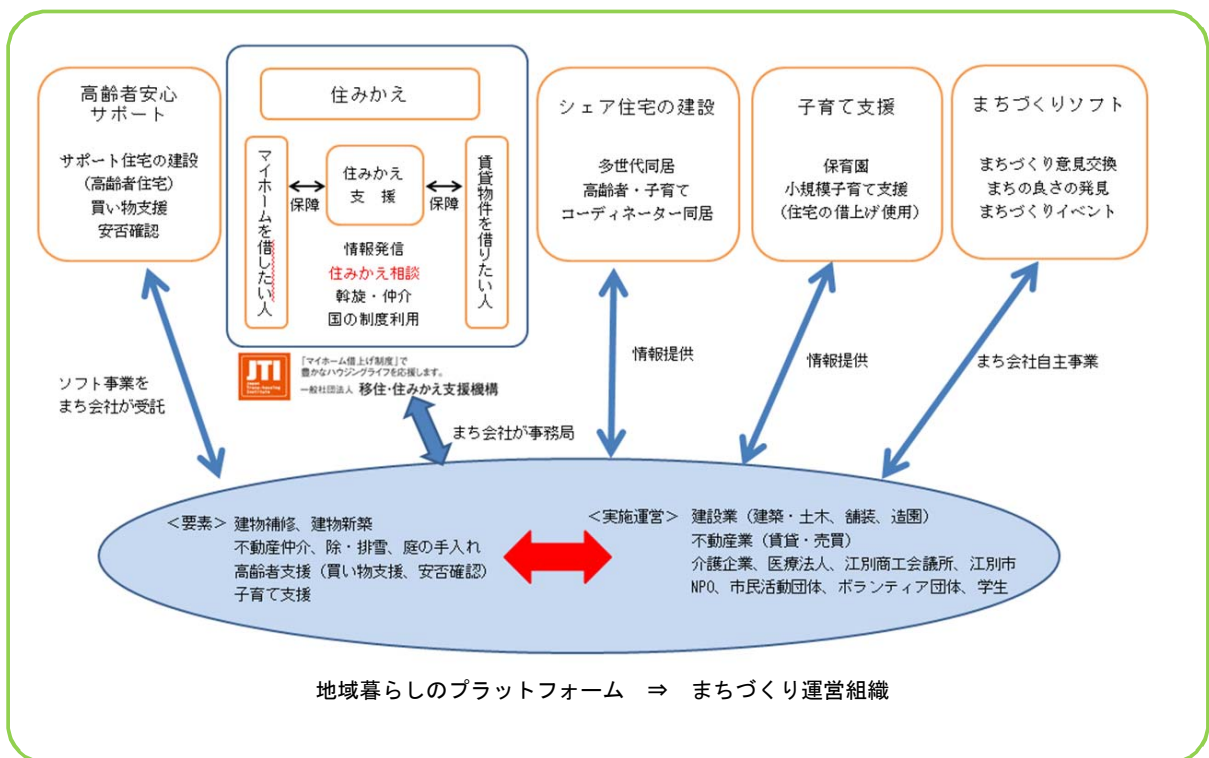
大麻地区の将来像は、住民が主体となって決めることとし、この実現のために必要な活動については、住民自らが率先して行う。また、周囲がその活動を支援する。

多種多様な分野並びに職種による課題解決を基本とする

課題の解決に際しては、住民、NPO等市民活動団体、大学、企業、行政等が総合的、公益的な見地から協働して、課題の解決手法を検討し、実施する。

持続可能な実施体制を構築する

江別市安心生活まちづくり推進事業イメージ図（将来像）



平成25年度江別市安心生活まちづくり推進事業イメージ図

【重点事項】

活性化初年度～活性化取組み啓発、市民意見の取り入れ、実施体制の構築

1. 住みかえ支援

実施勉強会
情報発信(講演会、WS、ニュースレター)
相談開始(ニーズを有する人発掘、意見交換等)

高齢者
安心
サポート

住みかえ
情報発信
相談

まちづくり
講演会
WS

運営協議会の結成

2. 受け皿づくり

安心サポート住宅、介護施設等に関する情報の発信
(企業及び子育て世代の住環境に関する意識調査含む)

(WS:ワークショップ)

3. まちづくり活動

地域の課題や良いところについて、一人でも多くの住民と共有化する
(WSの実施、地域良いモノ探し、マップ作成等 ～学生等幅広い年代の参加を促進)

4. 事業主体の構築

地域暮らしのプラットフォーム((仮)安心生活まちづくり推進事業運営協議会)の結成

7

江別市安心生活まちづくり推進事業の進め方

平成25年度事業

必要な事項	手 法
まちづくりの必要性を住民みんなで確認し合う(共有化)	ワークショップ
適切な情報の発信	ニュースレターの発行
幅広い情報の収集	住まい相談、子育て環境アンケート
住民の相談対応の場づくり	住まい相談、住宅相談(改修等)
骨太の課題解決の道を探る	企業ヒアリング、協議会
問題解決に向けての意見交換、連携の「場」の設置	協議会 → プラットフォームの形成



上記の取り組みを通して、市民が協働して行うまちづくりについて意見交換し、実施に向けた検討を行う。

8

「江別市安心生活まちづくり推進事業運営協議会」の必要性

まちづくり課題を解消するためには、より多数の人、多様な分野の力を結集して問題解決に当たる必要がある。

ハード

建設・改修などに関するもの

住宅改修、高齢者支援住宅及び介護施設の建設、不動産、子育てサポート施設、多世代シェア住宅、リノベーション、住宅の建替え(2世帯住宅等)、空き家・空地の有効活用

ソフト

コミュニティなど人との関係によって生まれるもの

住民コミュニティの活性化、高齢単身者の安否確認、安心安全サポート(高齢者配食、買い物支援、子育て等)、冬の雪処理サポート、情報の発信、仲間づくり、「場」づくり

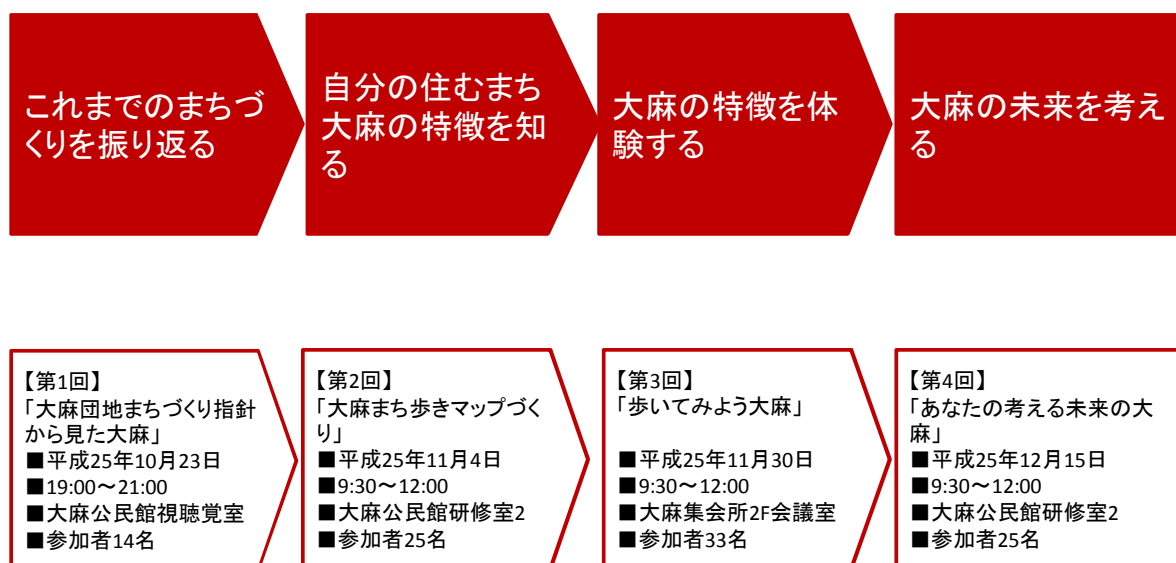
■ 協議会の構成

市民(2)、市民活動団体(1)、建設関係団体(1)、不動産関係団体(1)、大学(4)、商工団体(1)、介護関係(1)、福祉関係(1)、高齢者関係(1)、子育て(1)、アドバイザー(2)、オブザーバー(2)

9

平成25年度事業内容

大麻まちづくりワークショップ



10

テーマ：『寺子屋』

より具体的に言うと、どのようなことが行われているか？
 高齢者のスキルを若い人に伝える・子育て法・ミシン掛けetc・戦争体験・読み聞かせ・勉強
 どのような場所で行われているか？
 公民館・学校・出前講座

どのような人々で行われているか？
 いろんなことができる人

どのような時期・時間に行われているか？
 放課後・土日の夜

自分ほどのような役割を担っているか？
 仕事で得た経験を教える・子供の見守り

どれくらい続けたいか？
 密な関係が生まれる・『ふるさと』の意識が強くなる・子育てにいい影響・子供が正しい選択をする・仕事の大切さを知る・文京台との交流活性化
 何が障壁となるか？
 需給のマッチング・参加者を集めること・自治会や老人を引き出すこと

テーマ：『高齢者見守り』

より具体的に言うと、どのようなことが行われているか？
 配食サービス・介護サービス・清掃・雑談・モーニングコール・防災マップの活用
 情報技術の活用(ベッドの下にセンサーがあるetc)・地域行事として行う
 どのような場所で行われているか？
 家の前の花壇

どのような人々で行われているか？
 近所の核となる方・行政と業者の連携・包括支援センター・民生委員・自治会

どのような時期・時間に行われているか？

自分ほどのような役割を担っているか？

どれくらい続けたいか？
 大麻に活発なコミュニティが生まれる
 何が障壁となるか？
 行政との連携・核となる人がいるか

テーマ：『農園づくり』

より具体的に言うと、どのようなことが行われているか？
 子供・高齢者など多世代の人が集まって行う
 小さな農園がまちのあちこちに作られている
 どのような場所で行われているか？
 空き地(公共用地・住宅地etc)

どのような人々で行われているか？
 幼稚園・保育園児・学童・大学生・高齢者

どのような時期・時間に行われているか？
 春～秋・冬

自分ほどのような役割を担っているか？
 農作業をやる・まとめ役

どれくらい続けたいか？
 高齢者の見守りにもつながる・自給自足生活ができる・楽しくなる

何が障壁となるか？
 地面(農地)があるか・やる気が続くか・人手が足りるか

テーマ：『除雪』

より具体的に言うと、どのようなことが行われているか？
 ボランティアによる(おおあさの孫プロジェクト)・子供を集めて雪との関わり方を知る
 ワークショップ
 どのような場所で行われているか？

どのような人々で行われているか？
 学生・町内の人・地元自治会・社会福祉協議会・地域包括支援センター・民生委員

どのような時期・時間に行われているか？
 早朝・都合のいい時間

自分ほどのような役割を担っているか？
 空き時間にできる手伝いをする・挨拶、声をかける

どれくらい続けたいか？
 地域内にコミュニケーションが生まれる・多世代交流・子供が地域に愛着を持つ
 学生が江別の良さを知る・江別に住んでくれる人が増えるかも
 何が障壁となるか？
 うまくコーディネートする人と仕組みが必要・信用あるところが窓口になる

大麻地区まちづくりニュースレター



このニュースレターは、大麻地区のまちづくりの様子を、住民の皆さんにお知らせするために発行するものです。造成から来年で50年を迎える大麻団地。住宅の老朽化や、空き家・空き地も散見されるようになってきました。そのような大麻地区にあって未来のまちづくり事業として行われているのが、本年度からスタートした『江別市安心生活まちづくり推進事業』(事業者：江別市)です。この事業では、大麻地区の活性化や安心居住の取組として住民の皆さんの声を聴くワークショップなども行いますので、是非ご参加ください。

第2回『江別市安心生活まちづくり推進事業 運営協議会』が開催されました

11月11日、第2回協議会が開催されました。この協議会は、大麻地区の高齢者の住みかえや生活支援、子育て世帯の居住促進を目的とした『江別市安心生活まちづくり推進事業』を、民間と行政が協働で進めるための設立したものです。

第2回協議会では、①「大麻住まい相談」、②「子育て住環境調査」、③大麻まちづくりワークショップ、④今後の進め方、などについて話し合いました。

大麻まちづくりワークショップ

ワークショップは、参加した人たちの考え方や意見をまとめて、理解・確認するうえで非常に優れた手法です。最近では、市民主体のまちづくりを行う上では、欠くことのできないものとなっています。

そこで、江別市安心生活まちづくり推進事業運営協議会では、10月から大麻地区のまちづくりを話し合う以下のワークショップを開催しています。

これまでのまちづくりを振り返る	自分の住むまち大麻の特徴を知る	大麻の特徴を体験する	大麻の未来を考える
【第1回】 「大麻団地まちづくり資料からみた大麻」 ■平成25年10月23日 ■19:00～21:00 ■大麻分館総務課2階 ■参加費/14名	【第2回】 「大麻まち歩きマップづくり」 ■平成25年11月4日 ■19:30～12:00 ■大麻分館総務課2階 ■参加費/25名	【第3回】 「歩いてみよう大麻」 ■平成25年11月30日 ■19:30～12:00 ■大麻分館2F 2号会議室	【第4回】 「あなたの考える未来の大麻」 ■平成25年12月15日 ■19:30～12:00 ■大麻分館総務課2階

■第4回大麻まちづくりワークショップ参加者を募集しています！詳しくは裏面をご覧ください。

第1回、第2回のワークショップでは

<p>第1回</p> <p>第1回日は、クイズ形式で大麻地区の特徴を確認するとともに、これまで行われてきた「大麻のまちづくり」を振り返りました。その後、2チームに分かれて、今後のまちづくりについて意見交換をしましたが、大麻のまちに対する熱い思いが伝わる意見が多くありました。</p> <p>【大麻で目指す目標】 <input type="checkbox"/>高齢者ケア <input type="checkbox"/>住居改良 <input type="checkbox"/>除排雪 <input type="checkbox"/>安心安全 <input type="checkbox"/>にぎわい <input type="checkbox"/>空き地・空き家活用 <input type="checkbox"/>医療機関 <input type="checkbox"/>交通アクセス等</p> <p>【住民主体で出来ること】 交流やボランティアに参画することが多くなりました。 <input type="checkbox"/>コミュニティ農園を通じた交流 <input type="checkbox"/>高齢者が講師となる寺小屋(高齢者・若者 高齢者間の交流) <input type="checkbox"/>除排雪ボランティア <input type="checkbox"/>福祉ボランティア <input type="checkbox"/>認知パトロール</p>	<p>第2回</p> <p>第2回日は、大麻地区の特徴を再認識するための「大麻まち歩きマップづくり」に取組みました。3チームに分かれて大麻の良いところや課題を、場所とともに挙げて地図に書き込みました。</p> <p>【大麻の良いところ】 <input type="checkbox"/>自然に関する意見が多くなりました。 <input type="checkbox"/>緑地 <input type="checkbox"/>高層(ななかまど、桜など) <input type="checkbox"/>公園 <input type="checkbox"/>個人の居</p> <p>【課題のあるところ】 <input type="checkbox"/>にぎわい <input type="checkbox"/>除排雪 <input type="checkbox"/>交通アクセス</p> <p>【良いところ・課題が重なるところ】 <input type="checkbox"/>のりすたが「道交量が少ない安全な」停留所がほしい <input type="checkbox"/>緑地が「美しい特産」がカスター</p>
--	---

■第3回日は、これらの意見を基に、実際にまちを歩いてみます。思わぬ発見があるに違いありません。(結果報告は次号で...)

第4回ワークショップ参加者を募集しています！！

1～3回目に参加しなくても大丈夫です。大麻のまちづくりに関心のある方は、どなたでも参加できます。今回は事前申し込みの必要はありませんので、お気軽にご参加ください。

【第4回】「あなたの考える未来の大麻」
 日時：平成25年12月15日(日) 9:30～12:00
 会場：大麻公民館 研修室2号
 問い合わせ：NPO 法人えつぱ協働ネットワーク

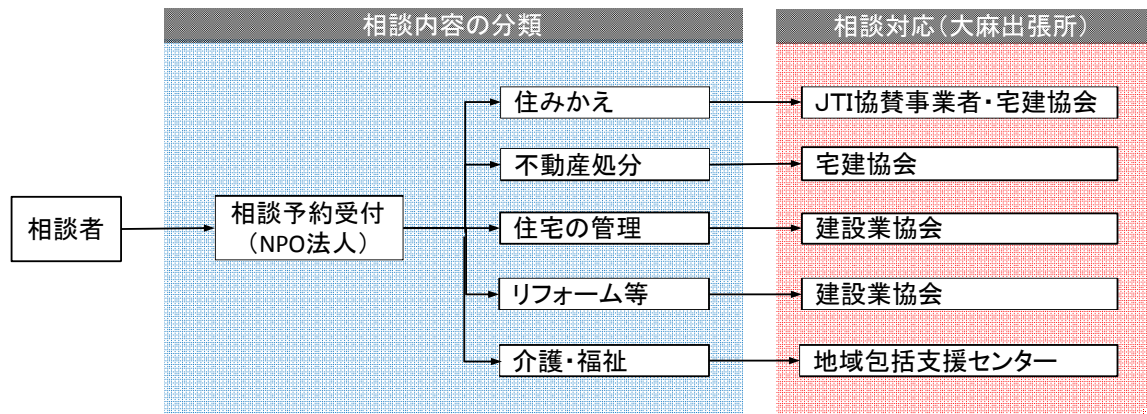
大麻のまちづくりサポーター 出現

「大麻まちづくりワークショップ」の参加者志士の集まりで、その名も「大麻まちづくり懇話会」。現在、メンバーは8名と少数ですが、これから集まりたい方、活動を進めたい方、サポートする方、興味のある方は、是非声をかけてください。(連絡先：NPO 法人えつぱ協働ネットワーク)

発行・編集

江別市安心生活まちづくり推進事業 運営協議会事務局
 <連絡窓口> NPO 法人えつぱ協働ネットワーク
 〒069-0813 江別市野崎町10番地1 イオンタウン江別2階
 TEL: 011-374-1460 FAX: 011-374-1461
 E-Mail: info@center-ijp

相談業務のイメージ



大麻住まい相談

大麻地区の住まいや住みかえなどについて、不動産・建築・福祉などの専門家が個別に相談を受けます。お気軽にご相談ください（前の週末までに要予約）。

◎日時／月曜日・水曜日 10:00～15:00
◎会場／市役所大麻出張所

申込・詳細 NPO法人えべつ協働ねっとわーく ☎ 374-1460
※今年度は江別市からの委託により、12月第1週まで試行的に実施します。

13

相談概要

■中古コンクリートブロック造住宅の購入について

- 大麻地区に住宅供給公社が建設した中古コンクリートブロック造住宅の購入についての相談。当窓口が持つ専門家ネットワークにより改修の際の手続き等注意事項をアドバイスした。
- 大麻団地には同様の型の住宅が多数存在しており、今後はそれらが売買されるケースも増え、類似の案件が増えるであろうと予想される。そこでこの「住まい相談」が役に立つものと期待される。

■土地の貸し出しについて

- 土地の売買に関してはどのような専門家がいて、どこに何を相談すればいいか、また契約を結ぶ上での注意事項などをアドバイスした。相談者は今までどこに相談すればいいかもわからず悩んでおられた。
- 不動産の運用は時に高度な判断や情報が必要になり一高齢者が全て行うのは難しいと思われる。高齢化が進む大麻地区では同様の悩みを持つ方が潜在的にも多いと思われる。
- 場合によっては福祉関係の手助けも必要になると考えられる。そのような時、当窓口のような多種にわたる専門家のネットワークは有効に機能すると思われる。

■条件が特殊な戸建て賃貸について

- 戸建ての賃貸住宅でペットのトリミング業を営みたいが適した物件が見つからないという方からの相談。
- 条件が一般的ではないので、普通に不動産物件を探すよりは、『事業を行う』という観点から投資者や事業者を探してそのような方々の協力のもと、場所の問題を解決していくという方向もあるのではないかとアドバイスした。

14

大麻地区子育てアンケート調査

■目的

近年、高齢化が進み、空き家、空き地が散見し、課題の一つになっている大麻地区において、高齢者のみならず若い世代に対しても住みやすい環境をつくり、各世代がバランスよく生活するまちをつくる必要があるとされる。

今回の調査では、若い子育て世代を対象として、安心かつ快適に暮らせる住環境全般へのニーズや満足度を把握し、今後の「まちづくり」につなげることを目的とする。

■調査対象

大麻地区の幼稚園、保育園に在籍する子の保護者

■調査方法

大麻地区の幼稚園、保育園でアンケート用紙を配布、回収は郵送、または各施設で回収

■調査期間

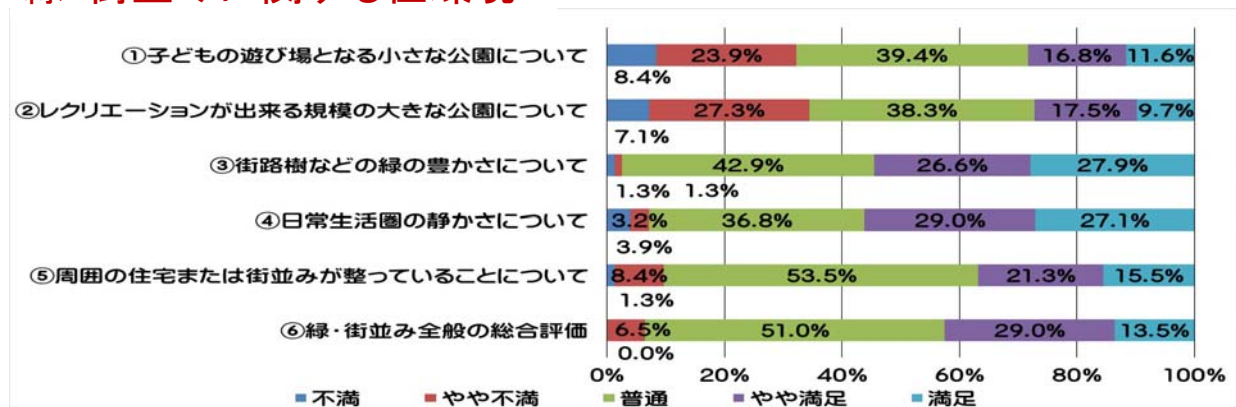
平成25年年9月13日(金)～10月4日(金)

■調査回収の状況

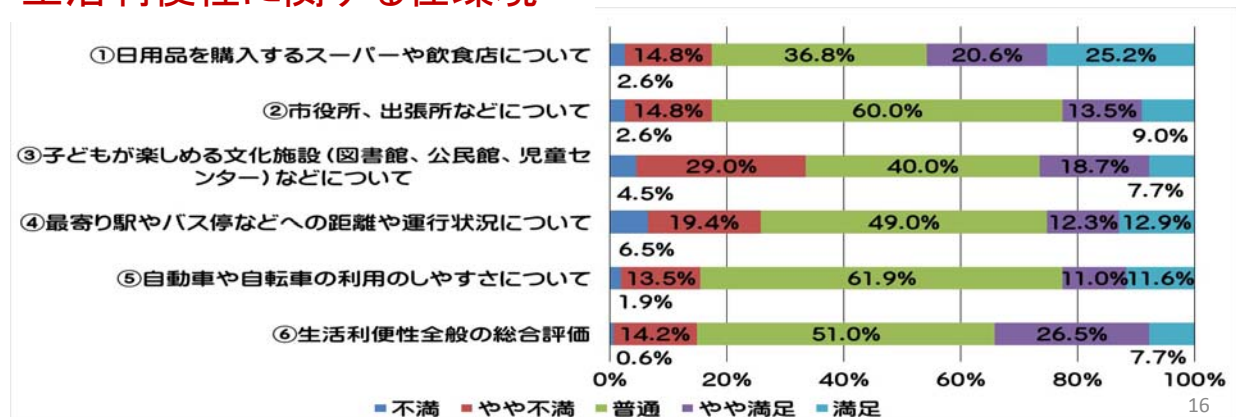
配布件数 368件 有効回答 153件 (回収率41.6%) n=153

15

緑・街並みに関する住環境

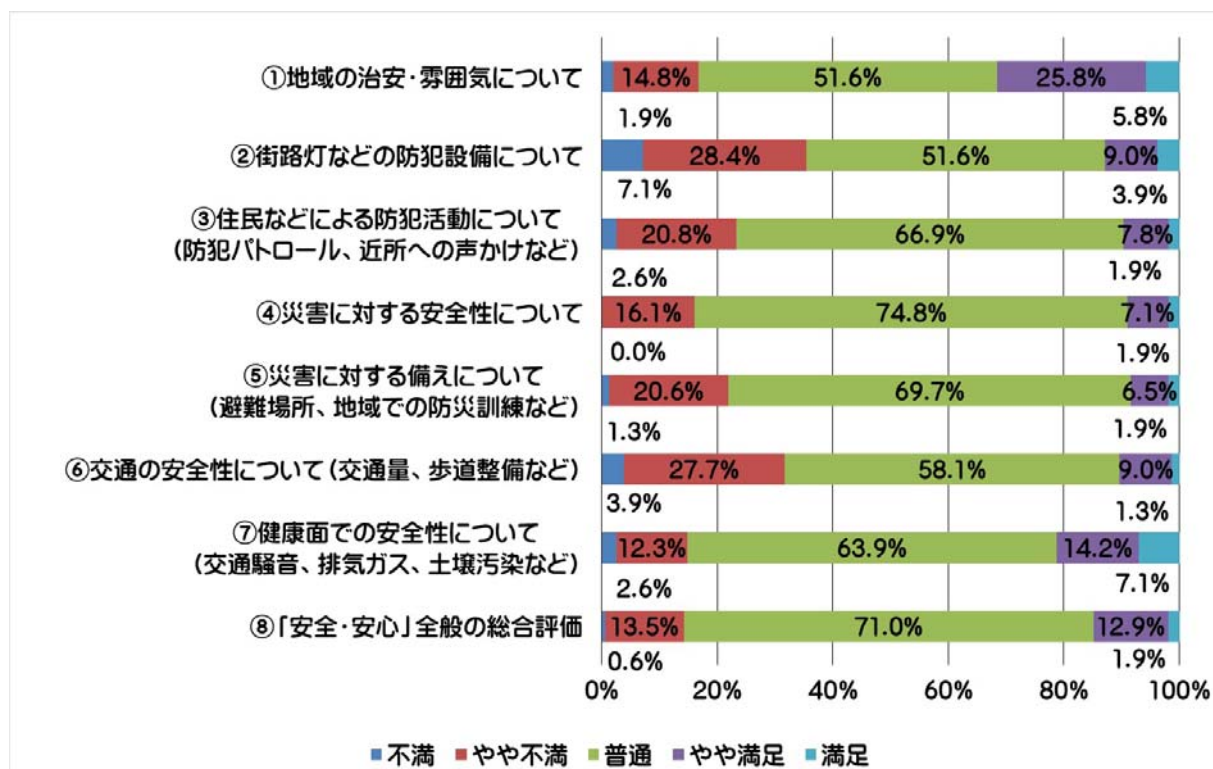


生活利便性に関する住環境



16

安心・安全に関する住環境



17

企業等アンケート調査

■ 目的

大麻団地の活性化に関しては、個人の生活に関する視点や高齢者や子育て世代に必要な施設設置に係る要素が非常に大きいことから、当該事業者と住民、そして行政が連携して施設誘致等の課題解決に導く手法を検討することが求められる。

本調査は、連携可能な事業者をアンケート調査により見出すことを目的として行うもので、後年、連携に前向きな企業等と本格的な連携手段について話し合う手がかりとする。

■ 調査対象

・高齢者対応施設

特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、小規模多機能ホーム、介護付有料老人ホーム、グループホーム、地域包括支援センター、社会福祉関係施設

・子育て施設

保育園、幼稚園

・その他

高齢者在宅サービス、地域コミュニティ活性化施設等

■ 調査方法

郵送配布、郵送回収

■ 調査期間

平成25年11月25日(月)～12月7日(土)

■ 調査票回収状況

配布件数 74件 有効回答 29件 (回収率39.2%)

18

大麻地区内での施設設置及びサービス提供の可能性

種別	可能性等がある事業者	可能性の程度・内容
高齢者対応施設	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・特定施設入居者生活介護施設の施設設置の意思がある(1件) ・高齢者向け住宅、高齢者生活支援事業について、条件が合えば行う意思がある(1件)
子育て施設	1件	<ul style="list-style-type: none"> ・学童保育のニーズに応えたいが、スペースの確保が難しい(1件)
その他	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅相談に関して業務条件次第で対応可能(1件) ・ゴミ出し、買い物支援等条件次第で対応可能(1件)

19

課題

- 江別市安心生活まちづくり推進事業運営協議会専門知識の活用と地域再生を総合的にマネジメントする恒常的な組織の確立
- 大麻まちづくりワークショップ
地域のまちづくりに寄与する活動を確実に実行に結びつける働きかけ
- 高齢化対応施設を設置・運営する事業者
当該事業者への積極的な情報提供と当該施設の誘致の働きかけ
- 子育て世代への対応
同世代との意見交換ができるネットワークの構築と居住促進やまちづくりへの参加
- 住まい相談
高齢者の意見を直接聞くことが可能な住まい相談は必要であり、継続実施が求められる
- まちづくり情報の発信
多くの人にたくさんの情報が伝えられるインターネットを活用した情報手段の整備

今後の進め方

- コンセプト
 - ・自治会との連携を確かなものにする
 - ・大学(学生)との関係を強固なものとする
 - ・たくさんの人への情報発信
- 具体的事業
 - ・地域のまちづくりを総合的にマネジメントする組織づくりの検討(機能別のシステムから検討)
 - ・住民によるまちづくり活動の活発化、誘導及び支援(農園づくり、見守りパトロール、寺子屋活動、除雪ボランティア等)
 - ・高齢者施設等の誘致に向けての事業者との意見交換(高齢者向け住宅、シェアハウス等)
 - ・住まい相談の運営等により改修や住みかえにつなげる(リノベーション等の活用)
 - ・ニュースレターの発行等による情報発信(ホームページ、SNS等の活用)

20

特定政策課題の解決に向けた 取組について

— 特定地域再生事業費補助金事業 —

岡山県笠岡市

笠岡市の概要



位置：岡山県の西南部
瀬戸内海に面する
広島県福山市と隣接
国道2号, JR山陽本線
・山陽新幹線, 山陽自動車道が東西に
横断

人口：52,524人
(H26/1/1現在住民基本台帳)

面積：136km²
有人島7島

特色：温暖小雨の瀬戸内海気候
平野が少なく, 干拓により市域を拡大

笠岡市の個性

- “風光明媚”笠岡諸島



- “生きている化石”カブトガニ



- “夢の大地”笠岡湾干拓地



- “ご当地グルメ”笠岡ラーメン



地域の現状と課題

背景・現状

高齢化の加速

高齢化率は、全国平均よりも約6.8%高い30.9%。今後も高齢化が急速に進展している。(H24.10.1現在)

地域コミュニティの衰退

人口減少等により、中心部・農村部における地域コミュニティが衰退し、地域活力が低下している。

地域公共交通の衰退

利用者の減少等により、地域の公共交通(路線バスや離島航路など)を担う事業者の経営環境が悪化している。

政策課題

◆人口流出の防止(定住対策)

・地域のコミュニティ維持のため、子育て世帯等の人口流出を食い止める必要がある。

◆地域のコミュニティ拠点の整備

・子育て世帯等が地域コミュニティを維持・向上する上で必要となる多機能集約拠点を整備する必要がある。

◆地域のコミュニティネットワークの確保

・高齢者や子育て世帯等が地域コミュニティや生活等を維持・向上するために必要となる公共交通ネットワークを整備する必要がある。

地域再生計画の概要

地域コミュニティネットワーク再生計画

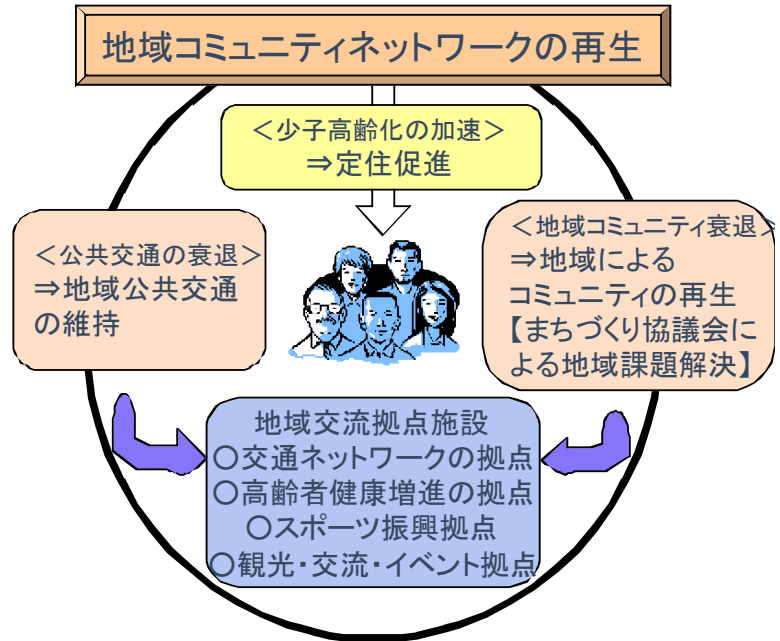
＜少子高齢化の進展に対応した良好な居住環境の形成＞

目標

人や物が自由に行き交い、交流、活動できる様々なネットワークを再構築し、少子高齢化の進展に対応した良好な居住環境を形成し、世代や地域を超えた豊かな暮らしの実現を目指す。

期待される効果

地域交流拠点施設を核とした地域コミュニティネットワークの再生を図ることにより、定住人口を確保する。



笠岡市独自の取組の内容

地域コミュニティネットワークを再生するための取組

定住促進

- ・新築住宅に対する助成
市内に住宅を新築する40歳以下の人に、最高100万円を助成。
- ・固定資産税相当額一部助成金
新たに取得した住宅に係る固定資産税の額の2分の1に相当する金額
※10年以上定住を誓約、①の交付を受けていない者、3年度を限度。
- ・宅地開発に対する助成
民間企業が造成する3,000㎡以上の工業用地・住宅用地に、上限4,000万円の奨励金を交付。
- ・就業支援
新規学卒者企業説明会開催や起業支援等の実施
- ・結婚対策
結婚相談事業や婚活イベントの実施
- ・子育て支援
子ども医療費給付事業の充実、保育所保育料減免充実事業、不妊・不育治療支援 など

笠岡市独自の取組の内容

地域コミュニティの活性化施策

・まちづくり協議会の設立

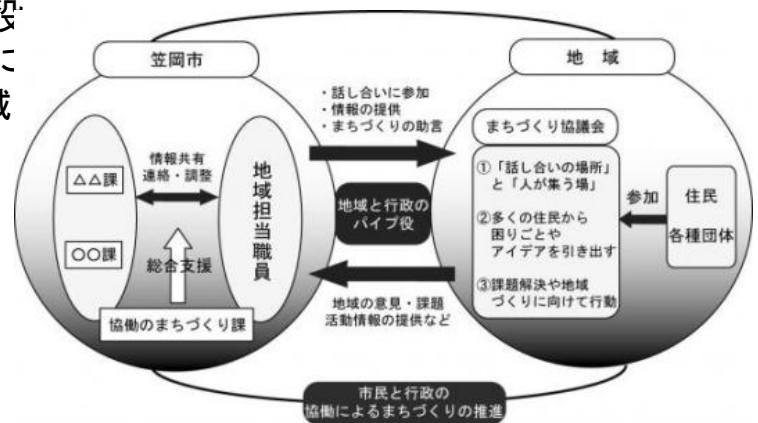
笠岡市を24地区に分けて、地域の課題や地域の特長を生かした地域づくりについて話し合い、地域で分野や活動を横断・調整する役割を担うための組織として、地域内にある全団体・全住民が構成メンバーとなる、地縁型組織「まちづくり協議会」を設立。

・地域担当職員の配置

行政とまちづくり協議会とのパイプ役である地域担当職員を配置することにより、行政と協働して持続可能な地域づくりを行う。

・魅力あるまちづくり交付金

市内24地区毎に設置したまちづくり協議会において、地域にある課題の解決や地域づくりに係る活動を支援する。



笠岡市独自の取組の内容

地域交通ネットワークの確保施策

・JR笠岡駅周辺整備事業

JR笠岡駅に新たに南口を設置することにより、笠岡港にかけての区域を一体化し、交通結節点としての機能強化を図る。

・地域公共交通確保維持改善事業

利用者の需要に応じた路線バスの運行や持続可能な航路体系の構築、陸上交通と海上交通の連携事業等

● JR笠岡駅～笠岡市交通交流センターへのバス路線新設

・港の乗り場環境改善事業

待合所や浮棧橋の新設、観光駐車場の整備等

路線バスの現状と課題

井笠鉄道(株)のバス事業廃止とその後の経過

- ・岡山県笠岡市に本社を置き、岡山県西部から広島県福山市にかけて県境を跨いで路線バス事業を行っていた井笠鉄道(株)が、平成24年10月末でバス事業を廃止した。
- ・これまでも民事再生法や産業再生法など法的整理に入ったバス事業者はあったが、いずれも経営再建の道を選択した。
- しかし、井笠鉄道(株)は経営再建を諦め、会社の清算を選択した。負債額は約32億円。
- ・平成24年11月1日から、(株)中国バスによる代替運行が開始された。
- ・平成25年4月から、(株)井笠バスカンパニーによる本格運行に移行した。



路線バスの利用者は減少傾向にあり、今後も人口減少が予測されている中では、交通事業者の努力だけで路線バスを維持することは困難である。よって、主な利用者である市民や企業などの協力、行政による支援などにより、関係者が一体となって、新たな運行方法を導入する取組みが必要である。

特定地域再生事業費補助金を活用した事業の内容

地域交流拠点施設(笠岡市交通交流センター)整備事業

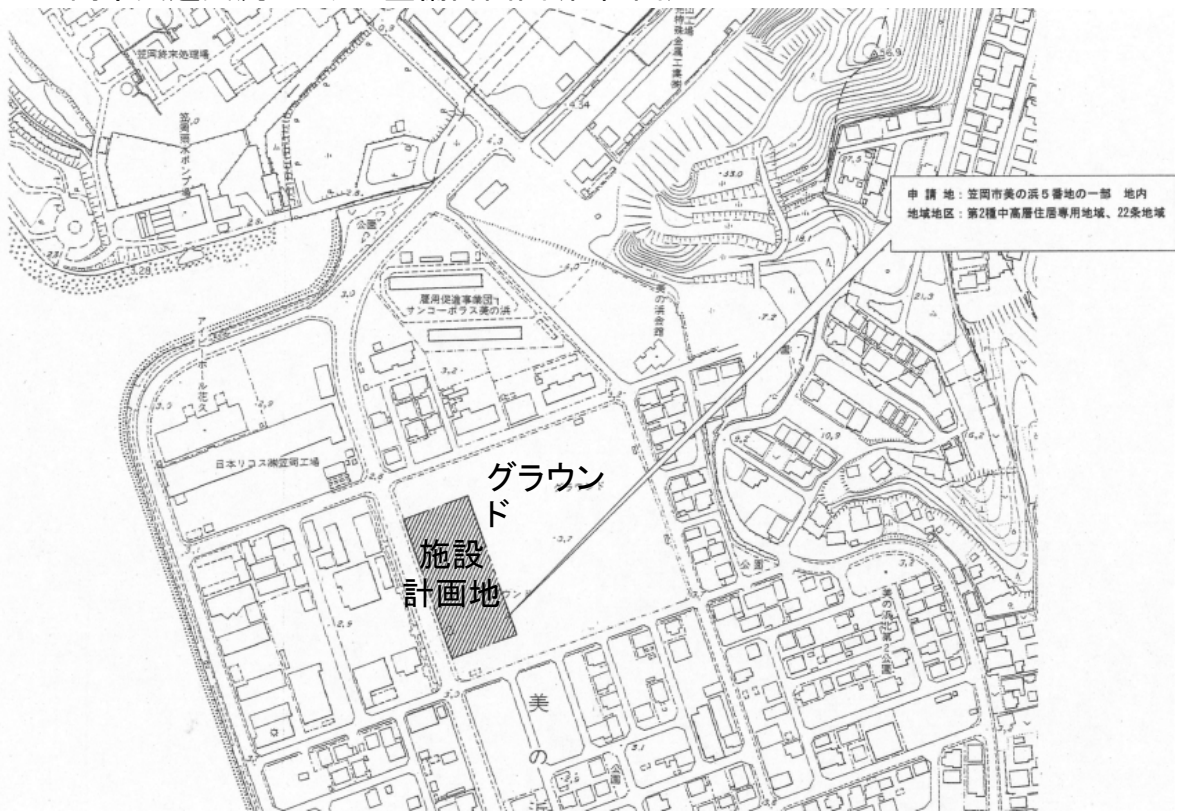
地域コミュニティネットワークを再構築していくために、バスターミナル機能を有した交通ネットワーク拠点を中心に、スポーツ振興拠点、高齢者健康増進拠点、観光・交流・イベント拠点などの機能を有する地域交流の拠点となる施設の整備を一体的に行う。

工事概要

○敷地面積	約5,000㎡
○待合所, 会議室, 事務所, 点検整備場	鉄骨造2階建て 建築面積 355.68㎡ 延べ床面積 588.24㎡
○駐輪場	アルミ製平屋建て 12台 建築面積 14.13㎡
○給油所	鉄骨造平屋建て 建築面積 28.00㎡
○洗車場	地下タンク 軽油:20KL 大型洗車機 1台 手洗い洗車スペース 1台
○駐車場	バス駐車場 36台 お客様駐車場等 34台

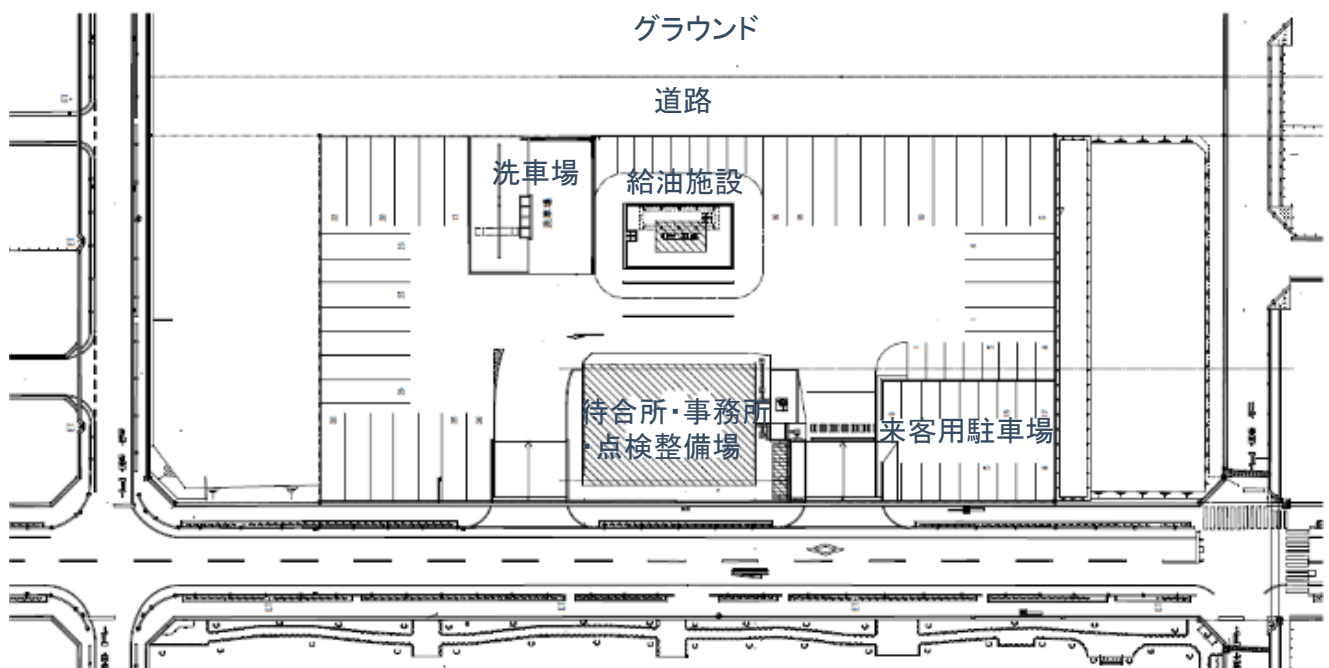
特定地域再生事業費補助金を活用した事業の内容

笠岡市交通交流センター整備計画図(位置図)



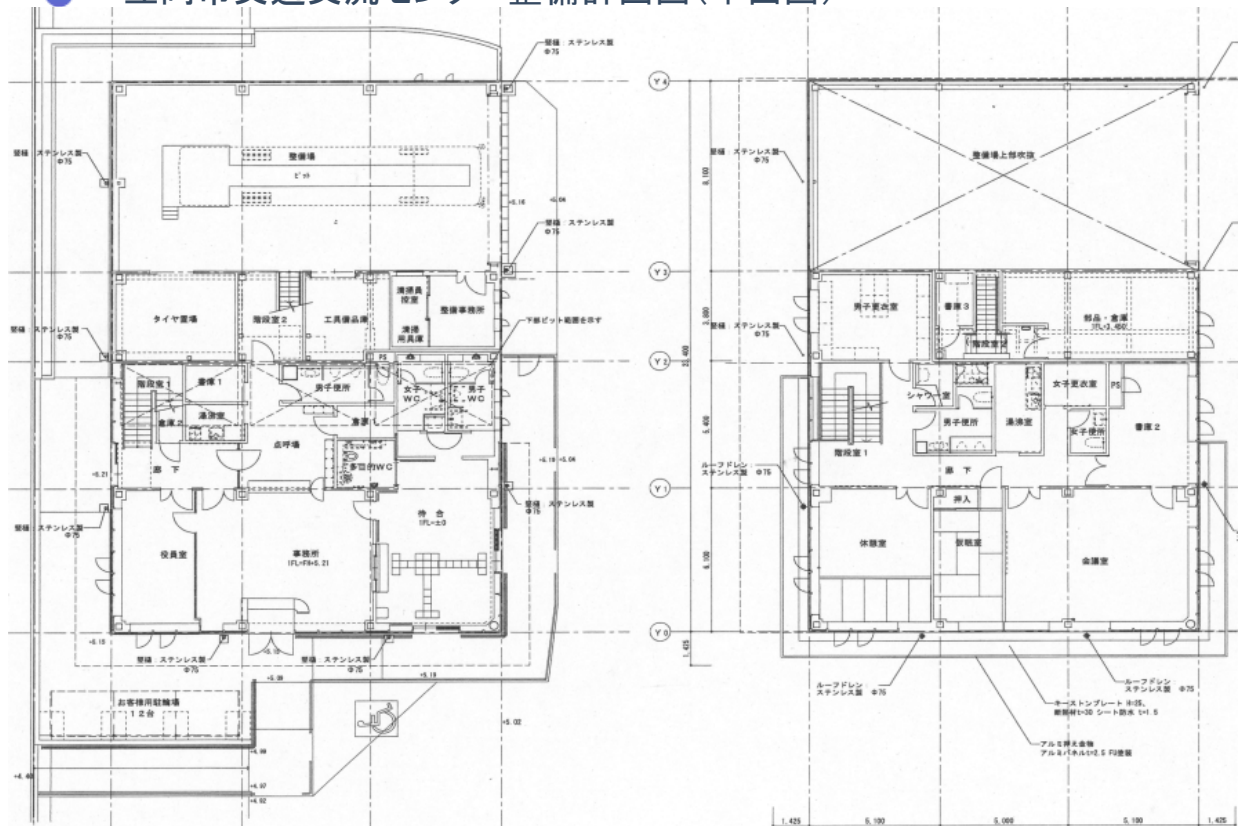
特定地域再生事業費補助金を活用した事業の内容

笠岡市交通交流センター整備計画図(配置図)



特定地域再生事業費補助金を活用した事業の内容

笠岡市交通交流センター整備計画図(平面図)



今後の予定

○笠岡市交通交流センターの完成

3月下旬

○ // 落成式及び記念イベント 3月30日(日)

<記念イベント>

- ・バス車両展示
- ・市内関係路線の無料化(当日のみ), シャトルバス運行
- ・グッズ販売, 特産品販売
- ・利用促進PR 等

○井笠鉄道記念館のリニューアル

オープン 3月30日(日)

※市が買取, 改修
地元まちづくり協議会が管理運営

○高速バス(大阪行)の乗入誘致 4月頃

※市がPRのラッピング

○JR笠岡駅周辺整備事業・港の乗場環境

改善事業 26年度～

JR笠岡駅, 笠岡港, 白石島漁港



『豊麗のしまー久米島』地域再生計画

平成26年1月28日
久米島町

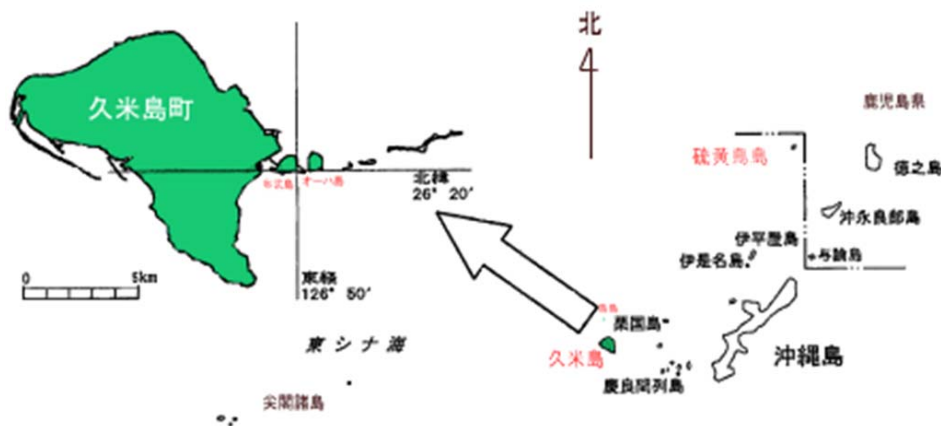
目次

- 久米島町の概要
- 地域の課題
- 事業の概要
- 特定地域再生事業費補助金を活用した事業の内容
- 補助金以外の独自の取組み内容
- 進捗状況
- 今後の予定



久米島町の概要

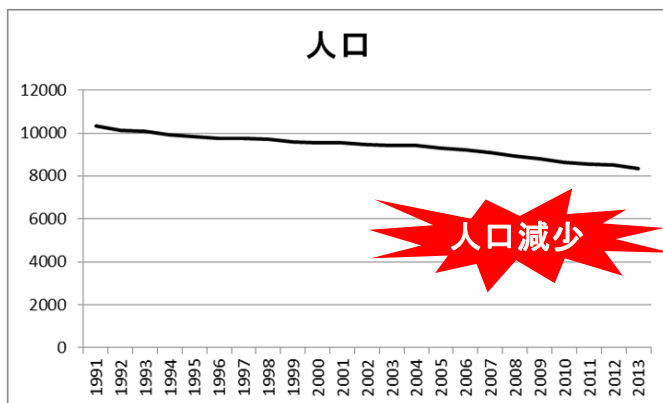
- 位置 沖縄本島の西約100km
- 面積 59.11km²
- 人口 3,942世帯、8,395人
(2013年12月現在)
- 平均気温 23.2℃



3

地域の課題

■ 人口減少



久米島高校の卒業生が毎年約100名程度島外へ流出

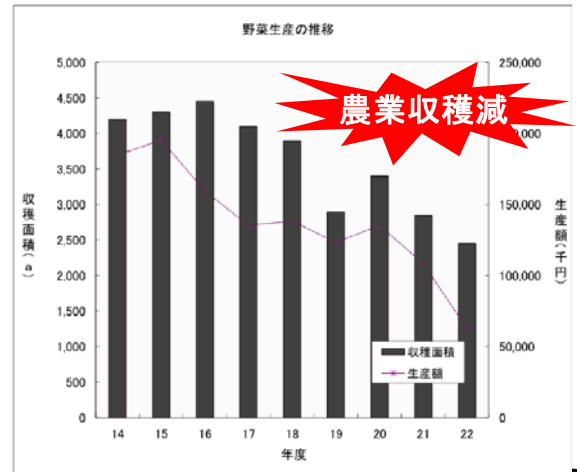
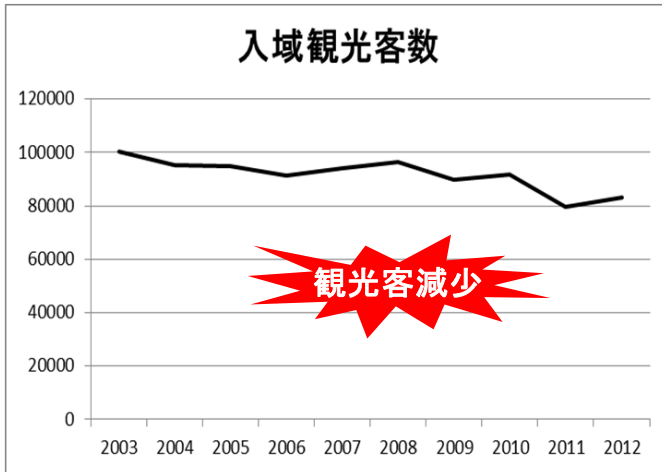
年	人口	増減
1991	10,311	-
1992	10,137	-174
1993	10,083	-54
1994	9,913	-170
1995	9,825	-88
1996	9,765	-60
1997	9,771	6
1998	9,694	-77
1999	9,591	-103
2000	9,527	-64
2001	9,550	23
2002	9,483	-67
2003	9,431	-52
2004	9,416	-15
2005	9,299	-117
2006	9,203	-96
2007	9,097	-106
2008	8,917	-180
2009	8,791	-126
2010	8,651	-140
2011	8,541	-110
2012	8,498	-43
2013	8,353	-145



4

地域の課題

- 島の主要産業（農業、観光）の衰退
 - 入域観光客の減少
 - 農業の衰退（後継者不足、耕作面積縮小）



地域再生計画の概要

『豊麗のしまー久米島』地域再生計画においては、既存の海洋深層水の複合利用と温度差発電をベースとし、新規の4事業を実施することとしています。

既存事業	新規推進事業（4本柱）	事業目標／効果
海出 海洋深層水の複合利用による産業創 海洋温度差発電	①島の電力の100%再生可能エネルギー化	・島の電力（10メガワット）の100%再生可能エネルギー化（海洋温度差・潮力・波力・風力・太陽光発電） ・研究施設、関連企業の誘致 ・海洋資源利用等の関連産業の育成
	②全島Wi-Fiによる情報システム基盤整備	・住民サービスの充実による安全安心社会の実現（地産地消、防災、福祉、教育他） ・観光客、企業の利便性向上（インターネット環境の強化）
	③ロボットモビリティの交通規制システムの実証実験	・世界初最先端技術の実証 ・研究施設、関連企業の誘致 ・観光客、住民（高齢者）の移手段の確保 ・観光、資材、流通等の関連産業の育成
	④海洋深層水の冷熱を利用した植物工場構築	・島内における野菜の安定供給 ・島外への付加価値野菜の供給

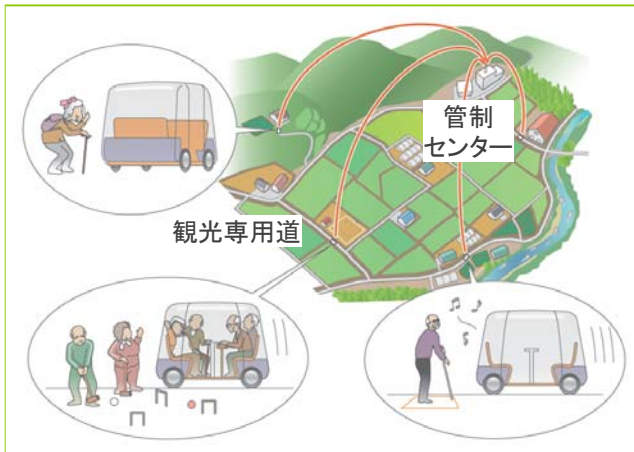


特定地域再生事業費補助金を活用した事業の内容

『豊麗のしま—久米島』地域再生計画推進事業の実施概要

- 奥武島・オー八島における久米モビ（センター制御自動走行システム）の運用に向けた準備
- ✓ 拠点整備
- ✓ 準天頂衛星の信号受信状況とGPSの精度の調査

【久米モビによる将来的なサービスイメージ】
高齢者の移動手段の確保



観光客の移動手段の確保/利便性向上

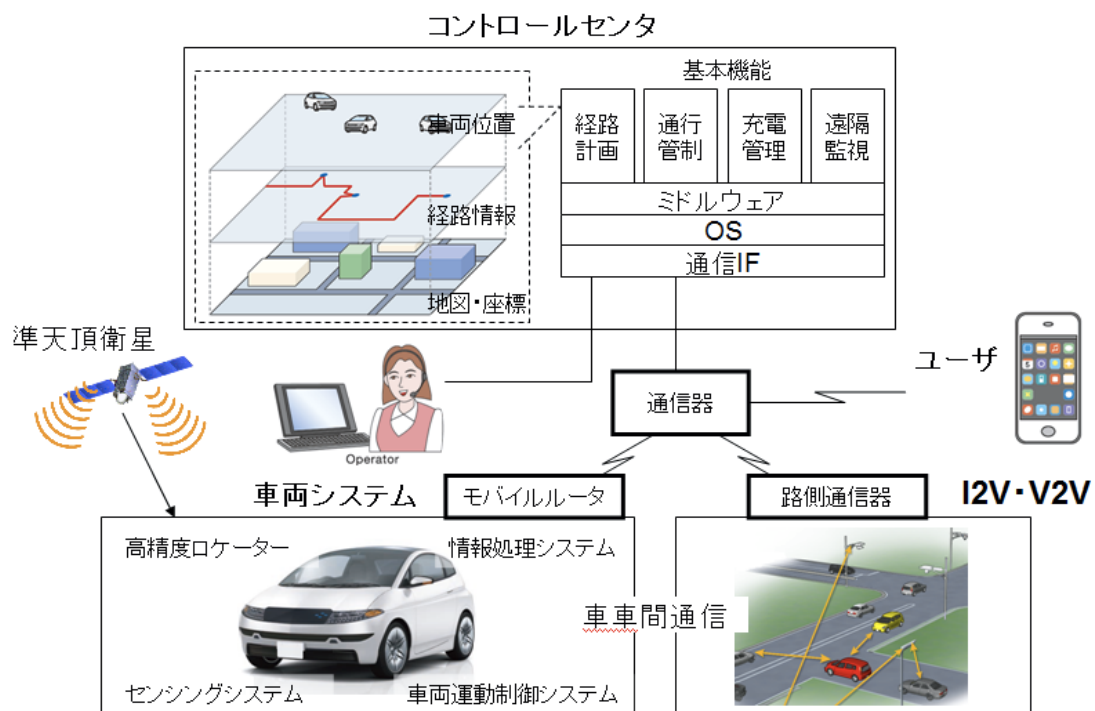


7



特定地域再生事業費補助金を活用した事業の内容

【久米モビのシステム全体イメージ】



8



補助金以外の独自の取組み内容

①島の電力の100%再生可能エネルギー化

沖縄県の海洋深層水研究所ですすめている海洋温度差発電事業において、実証プラントを構築し、2013年4月15日より本格的な発電を開始しました。

今後、取水設備の拡充を図り、出力海洋深層水の取水量を毎時1万トンとし、出力1Mwhを目指します。



実証プラントの概要

- 出力: 50kwh
- 海洋深層水の取水量: 1万3000トン/日



9

補助金以外の独自の取組み内容

②全島Wi-Fiによる情報システム基盤整備

久米島全域にWi-Fiアンテナを設置し、フリーの公衆無線LANサービスを提供するとともに、このネットワーク網上でスマートフォンやタブレット端末を駆使した観光案内、地産地消推進、高齢者見守り、防災サービスを提供します。

【久米島町へのWi-Fiアンテナ設置状況】



平成25年度より提供開始するサービス

- タブレット端末を利用し、島内の生産者と消費者 (BtoB)をダイレクトに結ぶ地産地消地域経済循環システム
- AR (拡張現実) を駆使したスマホ向け観光ナビゲーションアプリ
- タブレット端末を利用した高齢者の見守りアプリ
- 携帯電話向けの防災メール配信サービス



10

補助金以外の独自の取組み内容

③ロボットモビリティの交通管制システムの実証実験

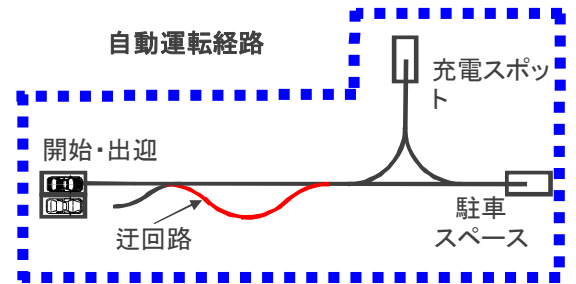
奥武島・オーハ島における久米モビ（センター制御自動走行システム）の運用に向けた準備

- ✓奥武島の道路整備
- ✓ITSWCでのデモ車両のカスタマイズと久米島でのデモ走行実施

【奥武島とその周辺道路の状況】



【2013ITSWCでの自動運転デモ】



補助金以外の独自の取組み内容

③ロボットモビリティの交通管制システムの実証実験の全体像

2020年までにSTEP3までを完了させ、『久米モビ』を実用化することを目指します。

	STEP1(限定場所)	STEP2(限定道路)	STEP3(限定地域)
狙い	基本システム構築	管制システム構築	効果・課題検証
場所	奥武島内 町有地	奥武島・イービーチ・中里漁港連絡公道	役場・病院・公民館・連絡公道
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ◆走行機能開発 (ITSWC13ショーケース車両を活用) <ul style="list-style-type: none"> 一走行環境認識、運動目標生成 ◆車両機能安全(外乱への強さ)強化 (◆技術開発 ●システム開発 ◇実証評価)	<ul style="list-style-type: none"> ◆管制機能開発 <ul style="list-style-type: none"> 一経路設定・誘導、交差・隊列走行 ◆通信ロバスト強化 ◆STEP3(一般ユーザ使用)車両開発 ◇利用者不安感分析、払拭手段検討	<ul style="list-style-type: none"> ●管制システム開発 <ul style="list-style-type: none"> 一運行管理、付加価値機能 ◇サービス必要性、経済性の評価 ◇ショーケースとして国内外へ紹介
システム	車両システム 	車両+管制システム 	車両+管制+サービスシステム
必要施設装置	<ul style="list-style-type: none"> ・テスト走行路(パーデハウス周辺)整備 ・R&D拠点(車両整備場含む) 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価車両(コムス改造) 12台 ・駐車スペース3箇所、充電器3台 ・専用走行レーン、道路表示、路側通信機 ・サテライト研究所(大学、研究所) 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価車両30台 ・駐車スペース6箇所、充電器30台 ・専用走行レーン、道路表示、路側通信機 ・車車間通信機2700台(島内一般車) ・車両基地、緊急時支援車両 ・管制センター、情報ネットワーク

補助金以外の独自の取組み内容

④ 海洋深層水の冷熱を利用した植物工場構築

海洋深層水の冷熱利用によるハウレンソウの栽培に関し、2010年度に久米島海洋深層水農業利用研究会において実証実験を行っており、この実証実験の結果に基づき、来年度より栽培面積を拡大した形で実証実験を行います。



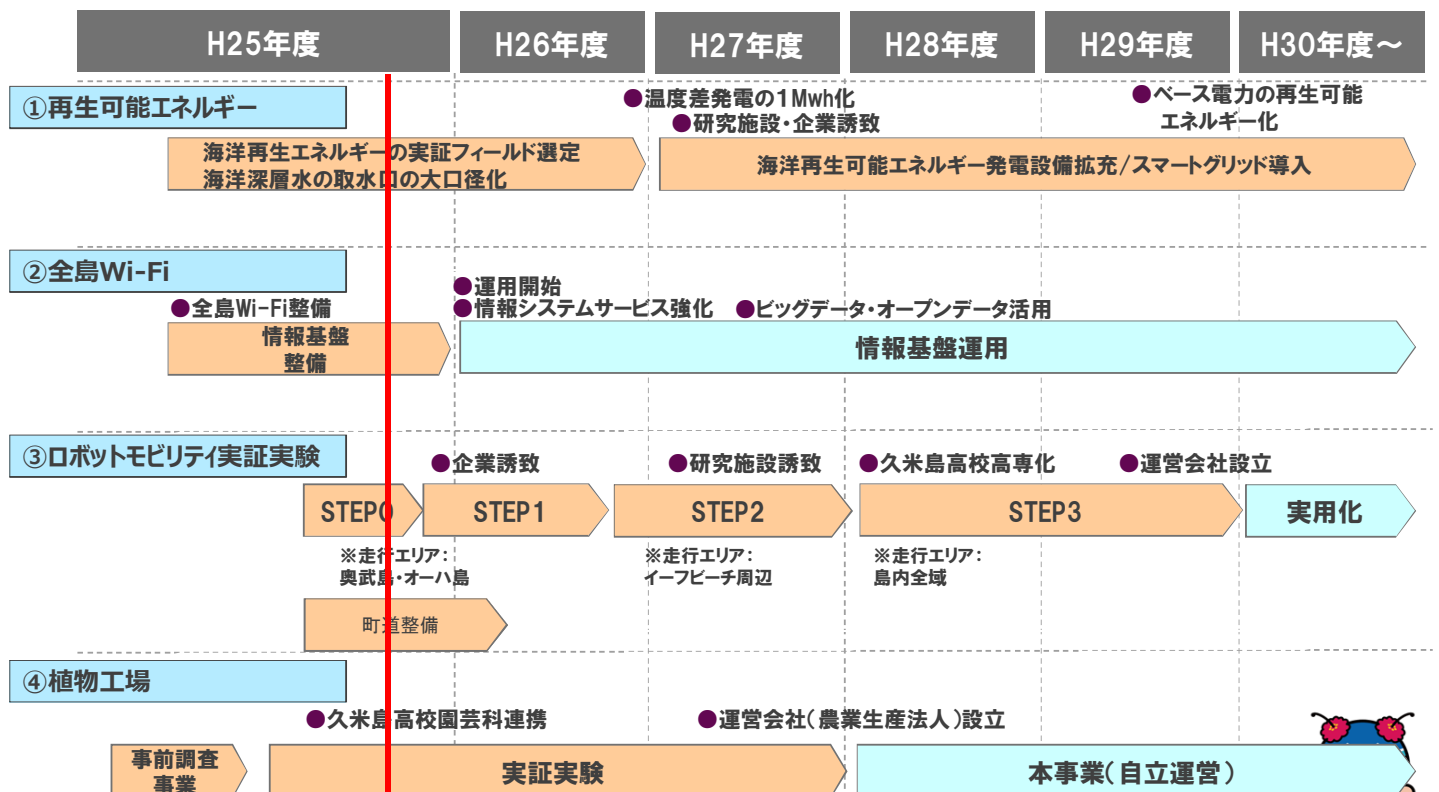
海洋深層水の冷熱利用によるハウレンソウ栽培実証実験の概要

- AETハウス(風速60メートルに耐えるハウス)を利用した養液土耕栽培
- 地中に海洋深層水によって熱交換した冷水を流すパイプを地中に埋めることで土壌を冷却
- 施肥、灌水については、土壌からの排水をモニタリングすることで自動制御



13

進捗状況



14



進捗状況と今後の予定

事業	進捗状況	今後の予定
①島の電力の100%再生可能エネルギー化	<ul style="list-style-type: none"> ● 実証プラント稼働開始（2013年4月） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 取水設備拡大のための予算の獲得（～2014年3月）
②全島Wi-Fiによる情報システム基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 全島Wi-Fi整備の完了（2013年12月末） ● 地産地消、観光、福祉、防災のサービス開始準備（～2014年2月） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各サービスの利用促進のためのPR活動実施（～2014年3月） ● 教育サービスの導入の検討（2014年度） ● Wi-Fi設備の増強（2014年度）
③ロボットモビリティの交通管制システムの実証実験	<ul style="list-style-type: none"> ● 拠点整備（2014年1月） ● 準天頂衛星の信号受信状況調査（2014年2月完了予定） 	<ul style="list-style-type: none"> ● ロボットモビリティのカスタマイズとデモ走行（～2014年3月） ● 奥武島道路整備（2014年度） ● STEP1の開始（2014年度）
④海洋深層水の冷熱を利用した植物工場構築	<ul style="list-style-type: none"> ● 植物工場調査事業実施（2013年12月） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 植物工場の構築と実証開始（2014年度）



平成25年度 特定地域再生計画策定事業

地域バイオマス資源と人材を活用するエコタウン計画 策定事業

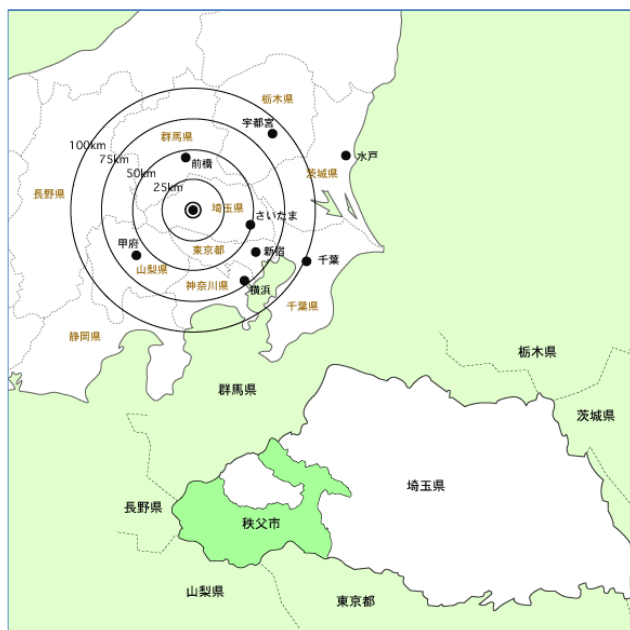
平成26年1月28日

埼玉県秩父市
環境立市推進課 諸敦夫



秩父市について

<概況>



- 面積: 577.69 km²
(埼玉県の15%を占める)
- 人口: 66,942 人
(平成26年1月1日現在)
- 森林面積: 505.86 km²
(市域の約87%が森林)
- 秩父市と言えば・・・
秩父夜祭(日本三大曳山祭)
芝桜の丘
武甲山(セメント原料の石灰石)
秩父銘仙
など



秩父市の現状と課題

森林の保全と活用

- ◆ 木材価格の低迷
- ◆ 林業従事者の減少と高齢化



- 森林の手入れが遅れることによる荒廃の危機
- 林業に係る技術の伝承が途絶える

急激な人口減少と高齢化

- ◆ 急激な人口減少
(平成15年から10年間に約7,000人減)
- ◆ 高齢化率 27%



- 若者等の働く場所の確保が急務
- 新規産業の創出と既存産業の発展

地域エネルギーの有効活用

- 素材生産が少ないためバイオマス利用が進まない
- エネルギーを効率的に利用するための仕組みづくり



- 豊富な森林資源(木質バイオマス)の利活用
- 地域のエネルギーに対する安心・安全確保



本事業のねらい

- ◆ 地域バイオマス資源の利活用を進めるためには、素材生産量を増加させて、付随して発生するバイオマスを利用することが重要であり、搬出(川上)側に従事する林業従事者を増やすことで、安定的な資源供給を図る。
- ◆ 木材価格が低迷していることから付加価値のある林業の創造と、定期雇用を継続させることを目指し、加工(川中)や販売・サービスの提供(川下)部分に、新しい仕事を創る。
- ◆ 地域エネルギー資源の利活用を加速させるため、エネルギーの効率的な需給関係の構築に資するスマートグリッドについて検討し、かつ、これをビジネスへとつなげるために、地域のエネルギーをマネジメントする地域EMS会社の設立を目指す。
- ◆ 林業分野における新規産業と地域EMS会社の設立を通じて、“秩父市＝環境”のイメージをブランド化し、これを各事業にフィードバックさせ、それぞれの価値を高める。



地域バイオマス資源と人材を活用するエコタウンの構築



本事業での取組(調査)内容
【林業分野】

雇用創出
＜林業従事者を増やす＞

- 【将来の被雇用者を増やすための調査】
 - 農林業系を専攻する高校生や大学生等を対象とした林業等に対する意識調査
 - U・ターンが見込める方等を対象とした林業等に対する意識調査
- 【受入側(雇用者側)の意識調査】
 - 素材生産業者や木材業者等の雇用者側へのヒアリング
 - ハローワーク秩父への雇用状況等のヒアリング

新規産業の創出
＜林業従事者の働く場所を創る＞

- 【先進事例調査】
 - 単に木材産業にとらわれないブランド化手法等を取り入れた付加価値のある林業を目指して先進事例を調査
- 【需要先調査】
 - 先進地調査の結果から、需要側のニーズを把握するための調査として、県下最大の需要地であるさいたま市を例とした調査

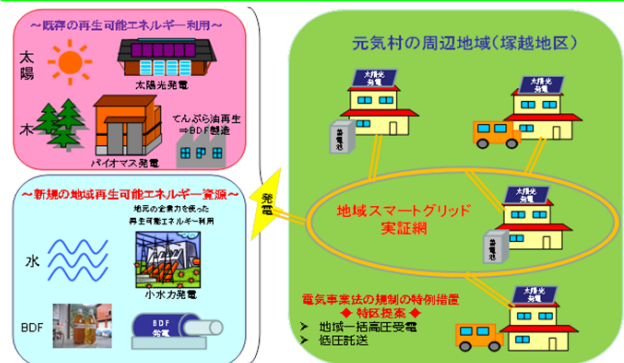


本事業での取組(調査)内容
【エネルギー分野】

地域EMS会社に関する事業化可能性調査

- 【スマートグリッドに係る調査】
 - 国内外におけるスマートグリッド形成に係る先進事例調査
 - 先行事例に基づき、吉田元気村とその周辺地区とのスマートグリッド形成に係る検討
 - ごみ発電からの電力を利用したスマートグリッド形成に係る検討
- 【地域EMS会社の設立に向けた調査】
 - 地域EMS会社設立を現状と規制緩和後のモデル検討
 - 本市における地域EMS会社モデルの提示

バイオマス発電等を活用した災害に強い吉田元気村の多電源・地域スマートグリッド実証



本事業以外での取組
【林業分野の一例】

【ボランティアによる林地残材搬出と薪加工・販売システムの構築】

搬出



加工・販売



利用



- システムの中核を担う“秩父森づくりの会”の発足
- サブビジネスモデルとして機能しつつある
- 地域バイオマス資源の熱エネルギー利用の促進



本事業での新しい雇用の場として、また、地域EMS会社の一業務としての連携・発展を期待！



本事業以外での取組
【エネルギー分野の一例】

【次世代型環境学習施設吉田元気村】

- ちちぶバイオマス元気村発電所 - 平成19年4月オープン



<施設概要(計画値)>

電気:発電端 115kW 送電端 100kW 熱:有効利用熱量 150Mcal/時
 運転:12時間/日 300日/年
 原材料:未利用間伐材等の木質バイオマス 1.5トﾝ/日 450トﾝ/年
 CO2排出量削減:350トﾝ-CO2/年 化石燃料削減量:90kl/年(原油換算)

<トピックス>

平成24年 8月 発電量累計 100万kWh達成
 平成24年11月 視察・環境学習数累計 1万人達成
 平成25年 3月 固定価格買取(FIT)認定設備

- この発電所に付随してBDF製造装置や太陽光パネル、木質バイオマスを利用した汚水処理装置等を整備
- 吉田元気村での環境学習と森林作業体験をセットした宿泊型の学習メニューの提供
- 未利用材(バージン材)を燃料に使用しているため、副産物の炭は、畑の土壌改良剤等として販売



本事業における、森林観光のプログラムの一つとしての活用や、副産物の炭を使った農産物をブランド化に利用する等の連携を目指す。



調査結果から
【今後の予定】

- ◆設立を目指す地域EMS会社の一事業として、まずは、特定規模電気事業者(PPS)の設立を地元企業と連携して目指す。
- ◆新規林業従事者を正規雇用として継続させるために、サブビジネスモデルとして現在実施している薪加工・販売、消費者のニーズが高い森林のソフト利用や木工製品の製造を現状の林業に組み合わせる。
- ◆新規林業従事者が安心して業務に従事できるように、OJTの充実、住宅の提供等を行うとともに、受入側への支援を行う。
- ◆『林業』や『環境(エネルギー)』に携わる方々と、その他産業分野の方々々が定期的に集まり、それぞれがアイデアなどを出し合って、さらなる新規事業へと発展させるために、異業種交流会を開催する。

※現在計画策定中であり、
変更の可能性あり

秩父市ホームページ

<http://www.city.chichibu.lg.jp/>



ご清聴ありがとうございました。

近江日野 三方よしの人づくり
農山村(ふるさと)活力再生計画
の取り組み



滋賀県蒲生郡日野町
<http://www.town.shiga-hino.lg.jp/>

日野町の位置



日野町

滋賀県の南東部、鈴鹿山系の西麓に位置する東西14.5km、南北12.3km
総面積 117.63km²の町。

人口 約22,400人
世帯数 約7,850世帯

車で

名神竜王ICより約25分
名神八日市ICより約20分
新名神甲賀土山ICより約20分
新名神信楽ICより約25分

公共交通

●JRびわ湖線・JR草津線
●近江鉄道 ●近江鉄道バス

日野町の歴史



蒲生氏郷の生誕地

- 信長の娘冬姫を妻
- 日野に楽市楽座
- 松坂12万石
会津92万石の藩主



近江日野商人を輩出

- 日野の千両店
- 地方に醸造業等を出店
- 万病感応丸(漢方薬)

日野町の風景



綿向山から広がる田園



河川敷に広がる桜並木



綿向山の冬景色



日野まちかど感応館

日野町の祭・観光施設



4月4日 南山王祭



5月3日 日野祭



滋賀農業公園 ブルーメの丘



グリム冒険の森

日野町の特産



丁稚(でっち)ようかん



原産 日野菜



近江日野牛



北山茶

日野町の現状 街中

【人口】

・H17年 22,809人 → H22 22,870人 0.3%増

※新興住宅地、住宅団地での増加が主な要因。既存市街地、農村部は減少

・高齢化率(65歳以上)

H17 23.4% (県19.7%・国20.2%)



H22 24.3% (県20.7%・国23.0%)

・既存市街地の空洞化、高齢化の進行(村井・大窪)

H17年 3,447人 → H22 2,959人 488人 14.2%減

H17年 23.5% → H22 28.5%

・古民家や農家等の空き家の増加

7

日野町の現状 農村部

【現状】

・農業者の減少

H12年 1,671戸 → H22 1,309戸

21.7%の減

・農業者の高齢化 H12 62.8才 → H22 69.8才
後継者不足

・耕作放棄地面積の増大

H12年 67ha → H22年 139ha 107.5%増(2.07倍に)

・農業では食べていけない

・野生獣による被害 耕作意欲の減退

➡ こうした現状は、全国的な課題

体験型教育旅行受入の取り組み

【目的】

- 農業に対する耕作意欲を取り戻したい
- モノを育てる喜び、感謝の気持ち、感動を取り戻したい
- 地域にある様々な行事や近所付き合いの大切さ、人と人、人と自然との関わり大切さを、改めて考える機会にしたい
- 農業などを含めた地域に対する自信と誇りの回復を図りたい
- 地域の未来を担う子どもたちに、自然、人、食、生きることの大切さを伝えたい



9

次代につながなければならない大切なもの

【地域への思い】

- 今の時代だからこそ、心の豊かさを取り戻さなければならない
- 都市も農村も、地域に対する自信と誇りを取り戻したい
- 一人ひとりが元気な地域づくりをしたい



地域の活力再生 日本再生

10

農村生活体験 平成21年度以降の実績

平成21年度 189名

- ◆子どもPJ 東大阪市小学校1校・海外2団体、視察受入1団体

平成22年度 1,162名

- ◆野外活動中学校6校・修学旅行中学校1校
- ◆東アジア青少年大交流計画事業 インド、ベトナム、オーストラリア
- ◆台湾1団体、韓国2団体・国内視察受入4団体

平成23年度 春～秋 2,438名

- ◆修学旅行9校・野外活動4校・子どもPJ2校
- ◆東アジア青少年大交流計画事業カン5、インドネシア、中国2、台湾1

平成24年度 春～秋 2,949名

- ◆修学旅行5校・野外活動12校・子どもPJ2校
- ◆フィリピン1団体・台湾1団体・静岡1団体

平成25年度 春～秋 3,096名見込み

- ◆修学旅行8校・野外活動13校、その他7団体

	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度 予定	H26年度 仮予約
受入団体数 (学校数)	3(1)	20(7)	22(15)	22(19)	28(21)	23(23)
受入人数	189	1,162	2,438	2,949	3,096	3,341
受入泊数	352	1,348	3,421	4,077	4,284	4,563
受入家庭数	47	122	182	150	150	150

都市と農村の共生対流が求められている背景

日本の社会情勢 → 日本は本当に豊かなのか？

① 経済不況・景気の悪化・格差社会

失業率・ニート・非正規雇用者

② 都市化・核家族化

日本の8割は作られた都市空間で生活
人間関係の希薄化

③ 食の安全・安心 口蹄疫・ラベル偽造

④ 学校教育 いじめ・登校拒否・不登校

人間関係構築能力の低下、コミュニケーション不足

本当の豊かさってなに？物？金？ → 「心の豊かさ」

人間が人間らしく生きる = 「精神文化の向上」

自然と人、人と人の関わりを大切にし、生きる力を育む

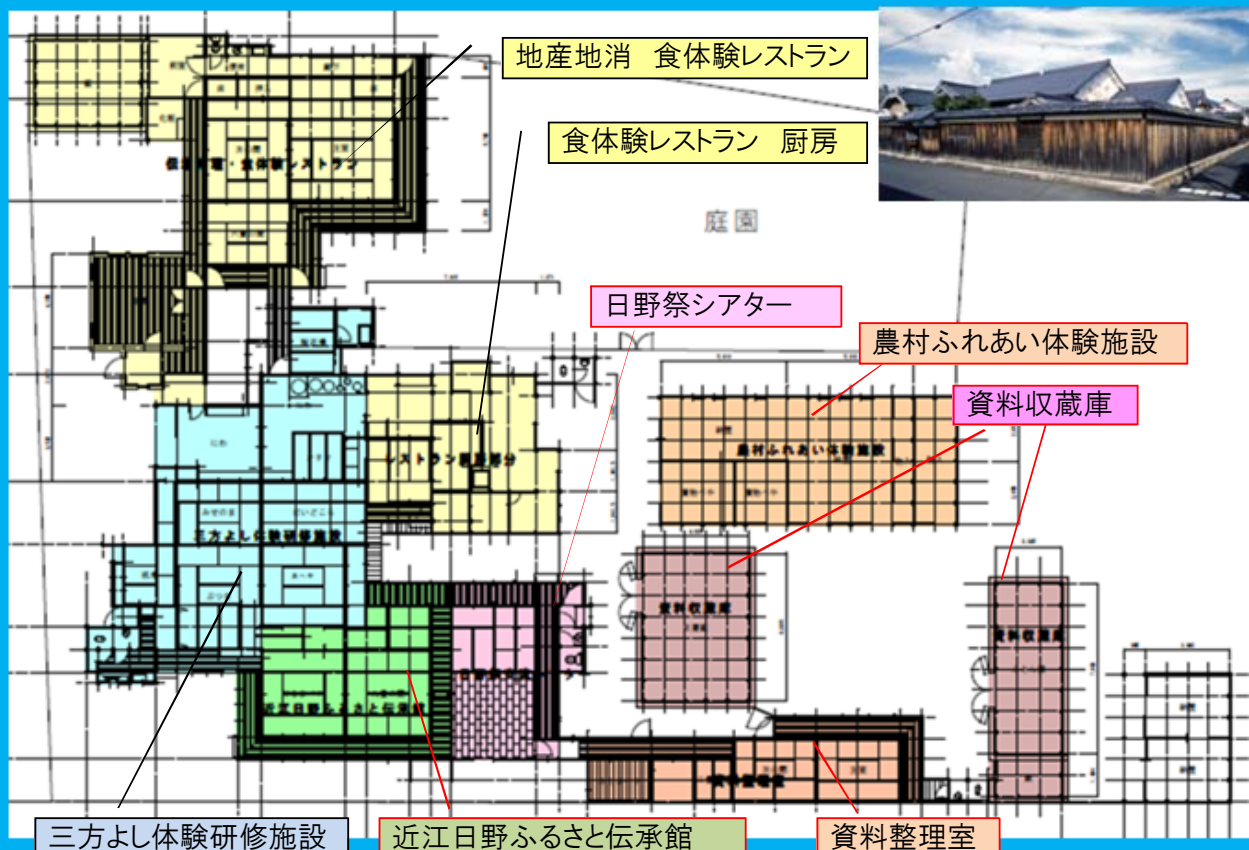
生業・技・巧・趣味・生き様・絆 = 田舎の教育力

日野町が目指す農山村（ふるさと）の活力再生



- 「観光振興」ではなく「地域振興」
- 体験が目的ではない！！真の目的は「交流」
- 共通体験・交流から互いが高まる「精神文化の向上」

感動体験交流施設の整備概要



都市と農村の共生対流のイメージ

5月3日、感動体験交流施設前を巡行する曳山



農村生活体験（体験型教育旅行）



三方よし！近江日野 ふるさとの“たから”
感動体験交流施設

配置図



交流人口の拡大で、まちの
産業・文化を守る

日野まちかど感応館
(日野観光協会)

近江日野商人館
(日野町歴史民俗資料館)

まちなか活力再生事業



農村生活体験受入研修の実施



農村生活体験受入研修会



グループ討議



農村生活体験実践研修



受入先進地研修

農村生活体験受入



お寺の鐘つき



近江日野牛の世話



日野菜の収穫



日野祭囃子体験

農村生活体験受入 離村式



涙のお別れ



全員握手でお別れ

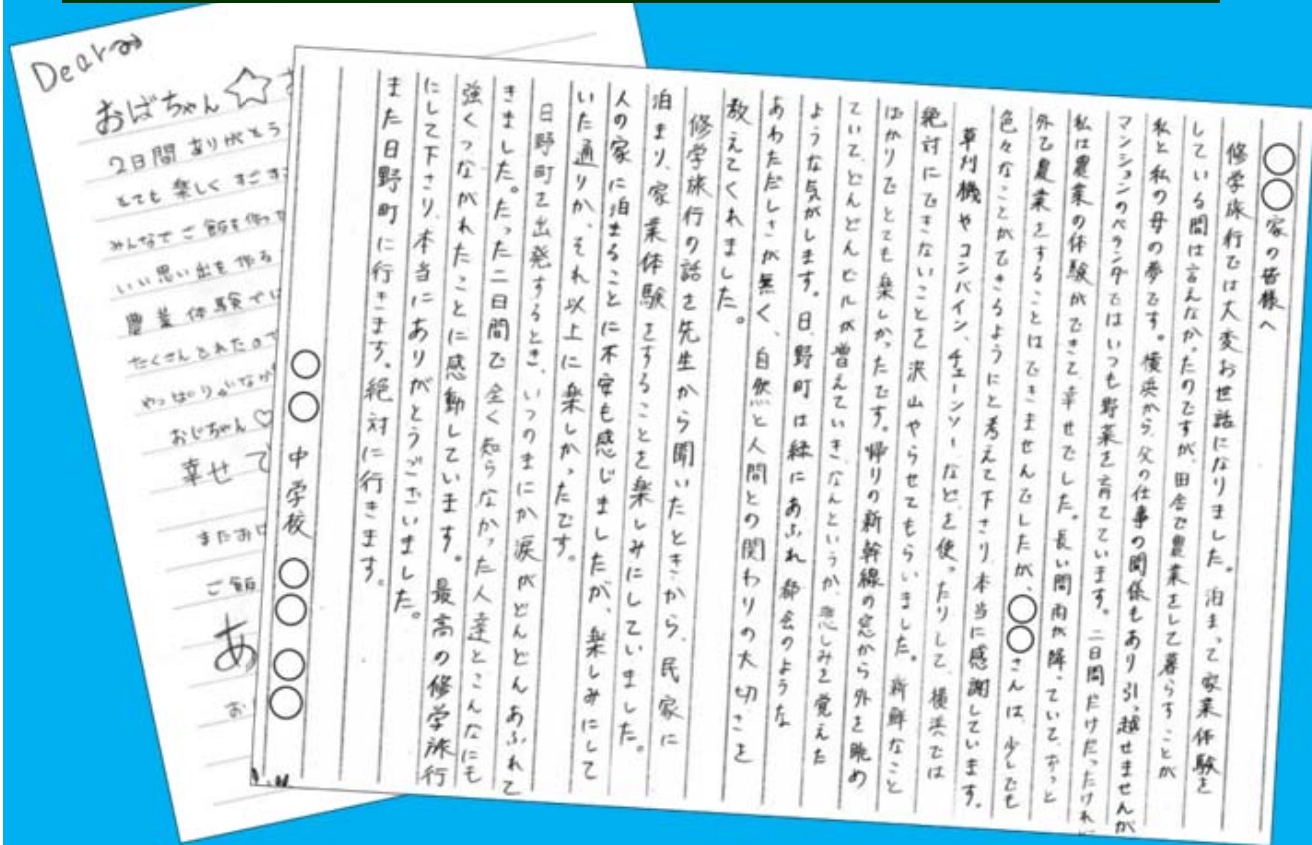


また来てや~



また来てや~

事後交流・生徒からのお手紙



さんぽう
三方よし!
近江日野 田舎体験



感謝

ご清聴ありがとうございました！！